

# 千石コレクション 古代中国鏡の至宝



きんしゆぎよくそうがんほうそうげもんろくりのきよう  
金珠玉象嵌宝相華紋六稜鏡  
(唐：約1,300年前、8.8cm)

青銅製の本体に金の板をはり、トルコ石や瑪瑙などの  
宝石を象嵌、隙間には金粒を充填し、装飾している。小  
さな中に先端技術の粋が込められた唐代の逸品である。

# 古代中国鏡の美、ここに集う

平成26年度、加西市在住の美術品蒐集家千石唯司氏（株式会社千石代表取締役社長）より、古代中国鏡を中心としたコレクションの一部が寄贈・寄託されました。

千石コレクションは千石氏が30年以上にわたり蒐集されてきたものであり、銅鏡としては最古級である夏（約4,000年前）から、宋代（約1,000年前）にわたる時代を連続的、かつ網羅的に覆うもので、鏡の文化を知る上で極めて重要な資料です。



かいじゅうぶどうきょう  
海獣葡萄鏡（高松塚古墳出土鏡と同型鏡）  
（唐：約1,300年前、16.6cm）



楽園を舞うンボと、西アジアから  
伝わったブドウのデザイン

## 日中をつないだ中国鏡

日本が弥生時代だった約2,000年前、鏡は当時の中国で栄えた漢帝国から日本に伝わり、北部九州を中心として配布され、主に墓に副葬されました。

239年には、倭国の女王「卑弥呼」が「汝の好物」として中国の魏の皇帝から100面の鏡を下賜され、それを国中に配布し、国家の威信財として鏡を利用することで、倭国内の結束を高めていきました。

やがて、中国に大帝国の隋・唐が誕生し、アジアの東西交易が盛んになると、西アジア伝来の紋様や素材を用い、新たな社会の風潮を反映した優雅な銅鏡が制作されました。それらは、遣唐使などによって日本に伝わり、高松塚古墳の副葬品や、聖武天皇の御愛用品である正倉院宝物となって今に伝わっています。

# 銅鏡の出現と怪異な紋様

## りょくしょうせきぞうがんきよしえんきょう 緑松石象嵌鋸歯縁鏡

(夏：約 3,700 年前、21.8cm)

トルコ石(緑松石)がはめ込まれ、縁がノコギリ歯状をした鏡である。鈕は写真の反対側に認められる。2本の沈線で区画された中央の円形部分が鏡として使われたと思われるが、姿見というより光り輝く反射を目的としていると考えられる。青銅鏡としては最古級の例である。



## くじゃくいしぞうがんすかしほりにじゅうたいきょう 孔雀石象嵌透彫二重体鏡

(戦国期：約 2,300 年前、10.7cm)

緑色をした縞模様の孔雀石がはめ込まれている鏡背面(写真側)と、鏡面(写真裏側)が別々に制作されており、二重体鏡と呼ばれる。顔を映す鏡面と、複雑な文様表現を目的とした鏡背で、銅合金の比率を変えて制作している。

## ないこうかもんきょう 内行花紋鏡

(新：約 2,000 年前、27.2cm)

内側を向く花卉形の幾何学紋が美しい鏡。ひもを通す穴のある中央の突起(鈕)の周りには4枚の葉を巡らせた四葉座があり、葉の間には、子孫繁栄を願う「長宜子孫」(長子孫に宜し)の文字が記されている。

日本国内の弥生～古墳時代の遺跡からも出土する馴染み深い鏡の一つである。





北に位置する玄武 (X線画像を反転)



西に位置する白虎 (カエルのいる月をもつ) (X線画像を反転)

# 古代中国人の宇宙観

## ほうかくきくしんきょう 方格規矩四神鏡

(新：約 2,000 年前、15.9cm)

鈕ちゆうの周りの方格と、TLV字状の規矩きく=コンパス・さしがね) 形の紋様を中心とする鏡で、方格規矩鏡と呼ばれる。中央の方格部には十二支を表す文字、外周には「王氏が鏡を作る。平和な世の中で、五穀が実り、両親が長生きし、福を受け、子孫が繁栄し、出世する」という、おめでたい文言が並んでいる。

紋様には、四神ぼんぶ(玄武・青龍・朱雀・白虎)や、小鳥などが所狭しと描かれ、十二支が示す方位と共に、当時の人々の宇宙観を表した鏡である。

日本国内の弥生～古墳時代の遺跡からも出土する鏡式である。

# 神仙世界への憧憬

ときんたいちしきしんじゅうきょう  
鍍金対置式神獸鏡

(後漢：約 1,900 年前、14.9cm)

鏡背のほぼ全面に金を水銀で溶かすアマルガム法による鍍金が施されている。鈕を巡るように 4 組の神仙が相対して描かれ、外周には龍がひく車や走獸などを描いた画紋帯が巡る。

下方の写真の左側には西方に住む女性神の西王母<sup>せいおうぼ</sup>、右側には東方に住む男性神の東上公<sup>とうおうこう</sup>が龍虎座<sup>りゅうこざ</sup>に座り、それぞれの両側には獸がある。この正面座の神像と両側の二獸からなる三像が一つの単位紋を構成し、これが鈕を挟んで対置することから対置式神獸鏡と呼ばれる。

また、両単位紋の境目のうち、一方には医術をあやつる黄帝<sup>こうてい</sup>と、その使者で人間に寿命<sup>じゆうめい</sup>を授ける人頭鳥身<sup>にんとうりうしん</sup>の句芒<sup>こうぼう</sup>が(写真①)、もう一方には琴を弾き陰陽を調和する伯牙<sup>はくが</sup>と一番の理解者である鐘子期<sup>しやうしき</sup>(写真②)がそれぞれ描かれている。

対置式神獸鏡は日本の古墳から出土する他、伯牙は祇園祭の山鉦の一つ「伯牙山(または琴破山)」の題材にもなっており、日本でも伝えられている神仙である。

①黄帝<sup>こうてい</sup> (左) と、人の頭に鳥の身をもつ句芒<sup>こうぼう</sup> (右)



②琴を弾く伯牙<sup>はくが</sup> (右) と、それを聞く鐘子期<sup>しやうしき</sup> (左)





きんぎんへいだつほうおうもんきょう  
金銀平脱鳳凰紋鏡

(唐：約 1,300 年前、21.0cm)

平脱とは、漆工芸の加飾法の一つで、金や銀などの金属を切り抜いた紋様板を、鏡体などに塗布した漆面に貼り付け、さらに漆を紋様板のない部分も含めて全面に塗布した後、紋様板上の漆膜をはぎ取る、という装飾技法である。

本鏡の紋様は鳳凰、植物が流麗に描かれており、銀を中心とした紋様に金でアクセントをつけている。



らでんそうおうむもんはつかきょう  
螺鈿双鸚鵡紋八花鏡

(唐：約 1,300 年前、16.5cm)

螺鈿とは、虹色に光る真珠屑をもったヤコウガイなどの貝殻をモザイク状に鏡体に貼り付け、樹脂状のもので埋め込むという装飾技法である。

2羽の向き合う鸚鵡紋が中心で、間には葉脈まで細か毛彫された葉紋で埋められている。赤色は琥珀で、ベースとなる樹脂状のものの中には 1mm ほどのトルコ石とラピスラズリの砕石粒が埋め込まれている。

外形は八枚の花弁のようで、八花鏡と呼ばれる。

ちようざんとさんりゆうほうからくざもんはちりようきょう  
貼銀鍍金龍鳳唐草紋八稜鏡

(唐：約 1,300 年前、21.2cm)

青銅の本体に、紋様を打ち出し、鍍金を施した銀板を貼り合わせた鏡である。

龍と鳳が活き活きと描かれ、その間には鈕から渦を巻くように唐草紋が延びる。銀板の紋様以外の部分には直径 1mm に満たない円紋を連続した「魚々子紋」を打ち出し、紋様を浮き上がらせる効果を与えている。当時の高級調度品にもみられる製作技法である。



ななこ  
魚々子紋 (小さな円紋)

華麗なる隋唐鏡の世界

# 流麗な鏡の中の図像



十二支の一つ「申（さる）」

## しんじゆうにしもんきょう 四神十二支紋鏡

(隋：約1,400年前、24.8cm)

鏡の鈕の周りを四神（玄武・青龍・朱雀・白虎）がとりまき、さらにその外側を12の十二支の動物が巡っている。いずれも活き活きとした躍動感あふれる表現である。

現在も十二支として知られる十二支は、中国では殷代（約3,200年前）には登場しており、日本では飛鳥時代末期（約1,300年前）のキトラ古墳壁画の例が古い。



## げつきゆうすきょう 月宮図鏡

(唐：約1,300年前、15.6cm)

鏡の円形を月に見立て、月に関する伝説を題材とした鏡である。

右端の西王母はウサギに臼で不老長寿の薬を作らせている。左端の天女の姿をした姮娥（または嫦娥）は不老長寿の薬を夫から盗み、一人で月へ上がるが、罰として蟾蜍（ヒキガエル）に姿を変えられている。

中央の木は月に生えているという「桂樹」といわれる大木である。

千石コレクションを一般公開へ！

古代中国鏡展示施設が、  
兵庫県立フラワーセンター(加西市)内に

**OPEN**します！

兵庫県立考古博物館では、貴重な千石コレクションを  
広く公開できるよう、分館として展示施設の整備を進めています。



正倉院をイメージした外観（右側は兵庫県立フラワーセンター本館）



コレクションを詳細に観察できる展示



古代中国鏡を楽しく学べるエントランス

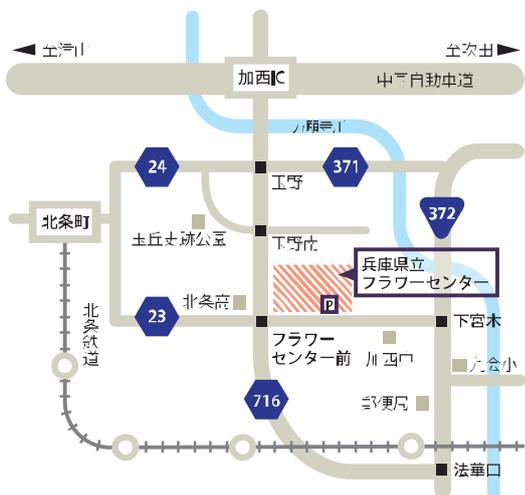
**ただ今、準備中**

整備予定場所  
兵庫県加西市豊倉町飯森 1282-1  
(兵庫県立フラワーセンター内)

国史跡「玉丘古墳群」や、国宝「一乗寺三重塔」、播磨  
同風上記の伝承地、石棺仏など、文化財の宝庫である加  
西市に開設します。

アクセス

- 車 | 中国自動車道「加西 IC」から南へ3 km
- バス | 姫路：神姫バス姫路バスターミナル北2番乗り場  
※日・祝のみ直通便(11:03, 12:03)
- 電車 | 北条鉄道 北条町駅でタクシー乗車(約15分)



編集・発行 |

平成 28 年 1 月 5 日 発行

兵庫県立考古博物館 〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1 電話：079-437-5589 (代表) FAX：079-437-5599